



柳澤 顕展 - Painting as a System -



今春、京都市立芸術大学大学院より博士号を取得、精力的に制作に取り組む柳澤顕の個展を開催します。

神経細胞のように複雑に絡まり合い、歪んだグリッド空間を形づくる無数の線。大量の球体や結晶体が巻き上がる旋回形を瞬間停止させたかのような形状。白い立方体が浮遊する隙間を高速の物体が飛び交う未来都市を思わせる空間・・・。

直接的な描画行為とその痕跡としての絵画という存在を解体し、それらを半自動的かつ生命的なシステムとして再構築することで、絵画というメディアに新たな領域を切り開こうとする柳澤は、無機性と有機性、激しい運動と完全な静止状態を同時に凝縮し閉じ込めたかのような両義的なイメージを、独自の方法論に基づくプロセスを通して、マニエールや手痕を排除した機械的な滑らかさと、生命的・身体的な流動性の双方がせめぎ合う、緊張感と揺らぎに満ちた表層として現出させます。

本展では、これまで取り組んできた平面中心の作品を新たな次元へと接続させていく試みとしてのインスタレーションを、ギャラリー一空間全体に展開します。また、展覧会会期中に開催されるアートフェア〈ART OSAKA 2011〉にも個展形式で出展、ホテルの客室というホワイトキューブではない空間でのインスタレーションに初挑戦します。どうぞお見逃しなく。 [作品解説 次ページ→]

画像上: 〈self-organization A01〉 2010年、布にプリント、油彩、カッティングシート、687 × 221 cm (インスタレーションサイズ、画像部分) 撮影: シュヴァープ・トム

【展覧会概要】

観覧先: 柳澤 顕展 - Painting as a System -

会 期: 2011年7月2日(土)～7月30日(土)

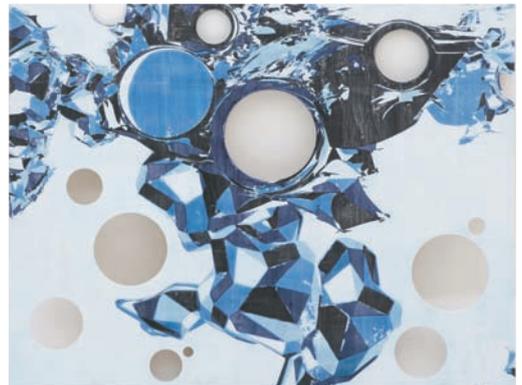
＊日・月・祝休廊 但し、7/10 (日)は開廊

会 場: アートコートギャラリー

[〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F]

開廊時間: 11:00 ～ 19:00 (土曜日と7/10は ～17:00)

レセプション: 7月2日(土) 15:00～17:00



〈untitled (tangled) 1〉 2011年、パネルにアクリル絵具、145.5 × 112 cm

【関連情報】

▶〈ART OSAKA 2011〉での個展

開催日時: プレビュー > 2011年7月8日(金) 14:00 - 20:30 ＊プレス、招待者のみ / 一般公開 > 7月9日(土)、10日(日) 11:30 - 19:00

会 場: ホテルグランヴィア大阪 26階 6211号室 [〒530-0001 大阪市北区梅田3丁目1-1 (JR大阪駅直結)]

入場料: ¥1,000 (1DAY PASS) / 公式URL: www.artosaka.jp

▶香港で開催されるアートフェア〈ART HK 11〉の《AISA ONE》セクションへ、アートコートギャラリーから個展形式で出展します。

開催日時: 2011年5月26日(木) ～ 29日(日) / 会場: Hong Kong Convention & Exhibition Centre (HKCEC) / ブース: 3C04

＊開催時間、チケット等についての詳細は公式URL参照: <http://www.hongkongartfair.com/>

主催: アートコートギャラリー (有限会社八木アートマネジメント)

協賛: 三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、三菱プロパティマネジメント株式会社

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [八木・清澤] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449

E-mail: info@artcourtgallery.com URL: www.artcourtgallery.com



ARTCOURT Gallery

Yagi Art Management, Inc.

OAP ARTCOURT 1F 1-8-5 Tenmabashi Kita-ku Osaka 5300042 JAPAN

柳澤 顕展「Painting as a System」 プレスリリース2

【作品解説】

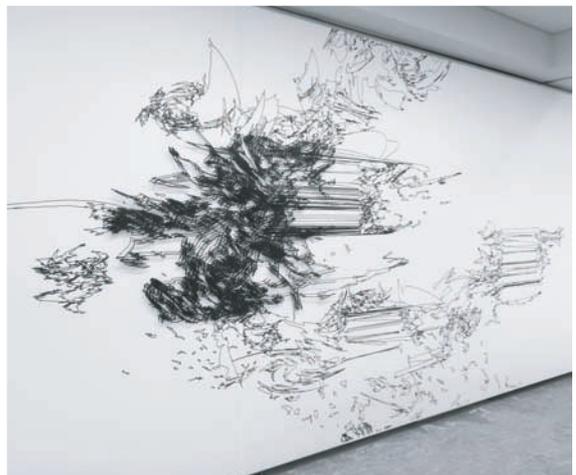
柳澤は、あらゆるものが制度化された現代において、画家が対象を見つめ、思考しながら描くという直接的・主体的な描画行為による「自己表現」としての絵画制作に違和感を抱きながら、従来の絵画を形づくる属性や形式を悉く解体し、複数の段階に系統立てられた機械的な制作プロセスを設定すると同時に、不確定性や自身の身体性を介在させることで、流動的な生成システムとしての絵画表現を提示します。

遠近法による格子構造や抽象的な幾何学形態に、コンピューター上で規則的／変則的な変形を一定のルールに基づき加えることで得られたイメージ。それらが、型紙によるマスキングを施したパネルにアクリル絵具を流し込み定着させるという行程を経て、絵具の積層として写し取られ、ときには、専用の装置によって切り出されたカッティングシートやアクリル板へと変換・出力される——。

極めて機械的に制御されたプロセスの一方では、無機質な要素が融合・増殖・分裂を遍歴しながら作家の意図や予測を越えた変化を重ねる、生命の発生過程にも似た有機的な「うねり」が生み出され、「イメージの決定・選択」といった作家の恣意性、手癖による版のズレや、巨大なパネルや壁に向かって絵具を流し込み、シートを貼り付けていくという身体的な不確定性とダイナミズムが組み込まれていきます。

また、そこから生み出される画面上ではCG→絵画というメディア変換から生じる映像性と物質性が交錯し、パネル内の画面から現実の空間へとみ出していく線＝「内／外」の連続と不連続が切り結ばれた地点を視線が通過することで、限定され固定されているはずの絵画の表層・境界が激しく揺さぶられます。

不断の生成変化の流れから切り出され、無数のバリエーションを潜在させた一断面としてのイメージを、自らの身体を介在させながら、固定された物質として立ち上げていくという、揺らぎと矛盾を孕んだプロセスとそこから生み出される存在物＝「システムとしての絵画」は、絵画が絵画たる条件を逆説的に照射すると同時に、高度に情報化された世界に生身の体で生きる私たちの矛盾した状況を、内側から解きほぐし、新たな局面へと開いていく可能性を秘めているともいえるでしょう。



左: <dissipative structure B01> 2010年、パネル、アクリル絵具、114.5 x 171 cm / 右: <autonomous system B02> 2010年、アクリル板、カッティングシート、331 x 891 cm
撮影: シュヴァーブ・トム

【作家略歴】

柳澤 顕 | Akira Yanagisawa

- 1980 群馬県生まれ
- 2003 筑波大学芸術専門学群洋画コース卒業
- 2005 京都市立芸術大学大学院修士課程美術研究科油画専攻修了
- 2011 京都市立芸術大学大学院美術研究科博士(後期)課程修了

| 主な展覧会歴 |

- 2006 P&E 2006(アートコートギャラリー, 大阪)'05
つかの間のもの、永遠なるもの — incubation 06(京都芸術センター, 京都)
- 2007 new generation: 層の奏で -Playing in Layeres- (アートコートギャラリー仮スペース, 大阪)
個展(石田大成社ホール, 京都)
- 2008 個展(GALLERY ZERO, 大阪)
風景ルルル〜わたしのソトガワとのかかわり方〜(静岡県立美術館, 静岡)
Resonance(リゾナンス)〜共振する感覚(静岡県立美術館, 静岡)
- 2009 Art Court Frontier 2009 #7(アートコートギャラリー, 大阪)
- 2010 VOCA展2010 現代美術の展望—新しい平面の作家たち(上野の森美術館, 東京)
- 2011 京都市立芸術大学大学院美術研究科博士課程展 第2期(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA, 京都)
個展「Painting as a System」(アートコートギャラリー, 大阪)

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [八木・清澤] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449

E-mail: info@artcourtgallery.com URL: www.artcourtgallery.com